浜松市生活支援体制づくり協議体（第２層、しんぱら圏域）　第３回会議　議事録

開催日時	令和５年３月 17 日（金）10 時 00 分から 11 時 45 分まで
参加者	委員：14 人　事務局：２人　関係機関：４人
場　所	ふれあい交流センター浜北　大会議室
内　容	１　開会 ２　挨拶 会長より挨拶 ３　これまでの振り返り 内容別紙参照 ４　議事 （１）令和４年度生活支援体制づくり協議体　分科会報告について 【浜名地区の委員より説明】 内容別紙参照 追記事項 ① 浜名中学校の職業体験で２日間協働センターへ。その際に家事支援の活動報告を実施。 家事支援だけでなく高齢者の実態について、町内会、自治会、地域について知ってもらうきっかけづくりとなった。 ② ふれあい交流フェスタにて家事支援の活動をパネル展示した。 家事支援のチラシを全戸配布していたが、家事支援について知らない方が多数いた。 周知のためにただ全戸配布するのではなくＰＲ活動をしていくことが必要。 【委員より感想・質問】 Q.家事支援にて各部門別の集まりを実施する中で変わってきたことは何か？ A,・何かが良くなった、数字が良くなったということはないが、顔を見て話をして「このような方が活動しているんだ」「何かあったら誘うね」と相談員、支援員、コーディネーターそれぞれ前向きに考えることができるようになった。 ・運営委員会としては楽しく活動を行うことを心がけている。携わっている支援者が楽しく活動をしていることで地域住民に「楽しい団体だね」「あの団体は何かしら？」と興味をもらいたい。活動日にはただ遊びに来てもらえるような通いの場を目指している。 【麁玉地区の委員より説明】 内容別紙参照 追記事項 ・買い物支援は地域住民より目で見てみることができる地域の支えあいとなっている。買い物支援は家事支援へ支給される実績交付金の対象外となっている。麁玉地区では買い物支援の記録係に毎回 100 円支給。年間で７万円

程の支出となっている。実績交付金の対象になることで地区社協としての負担の軽減に繋がるため行政には検討していきたい。

【委員より感想・質問】

Q.月１回実施している支援交流会では家事支援、買い物支援それぞれに共有する内容は？どのように伝わっていくのか？

A.・家事支援の支援員は 46 人在籍しているが支援交流会へ参加するのは 20 名程度。

参加されない方へは後程資料を配布する。内容としては家事支援と買い物支援と分けて家事支援で実際に支援に関わった人たちが毎月同じような話にはなるが、どのような状況で支援をしているのか、支援をしていく中での変化など個人の秘密ではあるが、家事支援全体にてやっている中身を実際に関わっていない方にも共体験できるようにしている。

困ったことや実際に現場でぶつかったことをみんなで議論をしている。

買い物支援の場所にはそれぞれリーダーが決まっており、その日その日の状況を理屈の部分ではなく実際に体験したこと、感じたことを出し合い共有で認識できるようにしている。

・包括も毎月実施している支援交流会に参加している。その中で支援員より家事支援にて関わりこんなことで困ったとその場で相談を受けることがある。家事支援はインフォーマルサービスで介護度が高い方は公的なサービスが入っており、ケアマネジャーがついているがインフォーマルサービスと公的サービスがバラバラに動いていることがあり問題が起こっていることがあるが包括へ情報が入ってこないことがある。今年度 2 ケース程そのような内容で家事支援の支援員にも参加してもらい地域ケア会議を開催することができた。

・家事支援で関わる中で身体、認知機能の低下がみられる方と関わることがある。支援について悩んでいることについて話が出てきたときに包括が出席していることで支援対象になっていないケースでも情報が入ってきていることもあるため、その場で相談し確認してもらうことができるのでありがたい。

（２）移動支援の活動発表及び意見交換（北浜なか地区社会福祉協議会　家事支援の会）

・北浜なか地区社会福祉協議会　家事支援の会にて実施している移動支援について説明

内容別紙参照

・パネルディスカッション

A… 生活支援コーディネーター（司会）

B…（北浜なか地区地区社協役員、家事支援の会委員長）

C…（北浜なか地区地区社協役員、家事支援の会運営委員、移動支援メンバー）

◆今回北浜なか地区社協とのパネルディスカッションの機会を設けた理由について説明。

今年度の協議体では、移動支援について検討してきた。自動車保険料についての問題は、「住民主体サービス補助金」の制度が利用できそうだとわかった。次は家事支援事業の中で移動支援を実施していくことができるのかを考える段階となっている。

まずは、北浜中地区社協にて実施している状況を聞き、委員の皆さんが理解する必要があると考える。移動支援の制度については、昨年度の協議体でも話を一度聞いているが、肝心なことは「なぜ立ち上げたのか」、「今どのような状況なのか」などリアルな声を知る必要があると思ったため。

①A：浜松市に 56 ある地区社協の中で、家事支援事業の一つのメニューとして移動支援を実施しているところが積志地区と北浜なか地区の 2 か所のみ。北浜なか地区の保険料が 1 回につき 1,450 円、積志地区が 400 円を負担している。違いは、北浜なか地区社協は車両保険に加入しているが、積志地区社協は対人、対物のみ。そこで自動車保険料が変わる。北浜なか地区は市内で一番最初に移動支援を開始した。

なぜ先駆けて移動支援を開始したのか？

B：家事支援を始めていろいろなお年寄りのお宅へ訪問し、草取りをしているときに、ぽつぽつと「買い物へ行きたいんだけど、なかなか遠くて歩いていけない。」「子供たちに頼むが思うようなものを買ってきてもらえない。」「できれば自分の目で見て選んでほしいものを購入したい。」と相談を受けるようになった。

以前に、民生委員として訪問する中で「膝が痛い」「腰が痛い」「重たい荷物が持てない」などの話をちょくちょく耳にしていた。家事支援の運営委員会でも話題に出ており、家事支援ではそのようなニーズを満たすことができないと話をしていた。そのような時に、たまたま市社協主催にて R2.1.16 に移動支援についての講演会があり、タクシーのように許可がなくても移動支援ができる方法があるという話を聞いた。講演会へは運営委員が 5～6 名で参加。移動支援が家事支援事業として出来ることを知り検討委員会を立ち上げた。

C：近所の独居のおばあちゃんのところへ家事支援で草取りのため訪問。作業の途中で「病院へ行くのに困っちゃった」と相談あった。「今までは中区に住む娘に頼んでいたが、嫁ぎ先の義母の具合が悪くなり看ている。娘を実家に呼び寄せることに抵抗があり、頼んじゃいけないと思う。どうやって病院へ行こうか？」と悩みを打ち明けてくれた。他にも同じような悩みを持った方から相談を受け何とかしなければいけないと思った。

A：困っている人がその場にいた。家事支援をしていく中で移動を手伝ってほしいという人が複数いたことがきっかけということですね。そのような中で講演会にて講師から「移動支援ができる」という話を聞き、気運が高まり検討会を立ち上げたということですね。

②A：ゼロから移動支援を立ち上げたわけですが、どのようなプロセスで立ち上

げていったのですか？

B：講演会で話を聞いたメンバーは運営委員の中でも移動支援のことについて興味関心が高く意欲的だったため、話を聞いた人と北浜なか地区社協の会のメンバーにて移動支援の検討会を立ち上げた。通達を理解することと、どのような方法であればできるのか、どのように運転手を募集すればよいか、といった分からないことをみんなで出し合い、一つ一つ検討していった。

中でも通達の理解が一番難しかった。この支援はやりすぎじゃないか、この方法だとタクシーになってしまうのではないか、と検討し時間がかかった。市社協の本部の方にも来てもらい説明を受け、時には口論になりながら会議を積み重ねていった。運転手は家事支援メンバーに声をかけ 8 名ほど「やります」と返答があった。

A：移動支援検討委員会を作ったというお話です。先日会議資料を借り、どのように話を進めていったか確認させていただいた。1 年間で 10 回ほど実施していた。自動車保険のことやドライバーや利用対象者の確保、申し込み受付の方法、規約づくり等をゼロから始め、約 1 年間かけて立ち上げることができたわけです。

③A：移動支援をゼロから立ち上げたことで、苦労したことは何か？

B：苦労したことを聞かれることが多いが、苦労したと思ったことはない。まず「家事支援だより」で北浜なか地区に移動支援ができることを周知した。すぐに問い合わせがあり、「私は息子と暮らしているけれど利用はできるか？」「ここまで行ってもらうことはできるのか？」と相談があり、すぐに 1 回目の依頼を受けることができた。ドライバーにも、家事支援の中で高齢者施設の送迎をしているメンバーがおり、そのメンバーから実地訓練をしてもらい、乗り降りの際に気を付ける点を教えてもらった。1 回目の移動支援を実施してみて、運営委員会の報告の際に利用者より「すごく嬉しかった。」「いつもは電車で行っていたからこんなに身体も気持ちも楽だと思わなかった。」と感想を聞くことができた。みんながやる気になったから苦労と感じることはなかった。

C：初めから苦労ということは考えていなかった。「まずやってみよう。その場で困ればみんなで考えていこう。何とか解決の方法があるだろう。」というのが先だった。丁度良いメンバーに恵まれたのか否定的な意見を述べるメンバーはおらず、みんなで協力しあうことができた。それが今上手くいっている理由だと思う。

A：苦労したことはないとのことだが、法律的な解釈については苦労したと聞いている。規約づくりについても、ひな形があったわけではないためゼロから作ることにも苦労したと思う。

④A：車の保険料は 1 日 1 台 1,450 円の支払い。家事支援では 1 時間 600 円利用者が支払う。1,450 円については丸々利用者から受け取るわけにはいかないため地区社協の予算から負担をしている。つまり、利用者の数だけ、地区社協の予算的な負担が増えるわけなので、よほどの立ち上げに対する強い意志がないと難しいと思うがその原動力は何か？

B：困っている人が地域に、自分の周りにいる。顔を知っている人が困っていることが自分の心の中にあることで自分自身を動かすこととなる。「あの人のために行ってあげることで、あの人は助かるんじゃないか？」といったことが自分を動かす動機付けになっていると思う。

A：自分の地域で暮らしている困っている人を助けたい、自分たちなら助けられる、という一心が原動力となっているのですね。

⑤A：移動支援を立ち上げてみて良かったこと、やって良かったと思うことは何か？

B：移動支援をして自宅に送り届けたときに「ありがとう」と言ってもらえる時が嬉しい。特に一つのケースを話すと、70 代独居の女性が高丘まで通院していた。朝 6 時代の電車に乗り浜松駅へ行き、そこからバスに乗り換えて高丘まで行き、帰りも同様にバス、電車に乗り帰宅するのが 15 時近くになってしまう。バス停で待っている際にタイミングが合えばすぐに来るが、タイミングが合わないと気温や気候といった条件が悪いときでも待たなければならない。身体の状態が悪くどうしても待っていられないときにはタクシーで電車の駅まで来て、自宅の最寄り駅まで乗り帰ってくる。お金も大変だが身体も気持ちもクタクタになってしまう、といった話を聞いた。それを聞き何とかしてあげたいと思った。その後移動支援を利用し受診をしているが、自宅を出発してから帰宅するまで２時間で済んでいる。本人からは「身体が楽で帰ってきてからもぐったりしなくて済んでいる」と切々と言ってもらうことができている。病院はそれほどまでに苦労してまでも通わなければならない場所なのだとつくづく感じた。利用者からは「病院で待っている間ぼーっとして一人で何も喋らずに待っていたが、隣で一緒に待っていてくれる。世間話をしたり、気分が悪くなっても支援員へ伝えれば看護師さんに伝えてもらうことができる安心感がある」といった感想が聞かれると「やってよかったな」「人の役に立てているんだな」と感じることができている。

C：おばあちゃんが遠方の病院２か所へ毎月通う必要があるため、受診のための移動支援をしていた。そのうちに、「今まで通っていた病院へ通うのはやめて、近くの病院へ受診先を変える」と言ってくれた。理由を尋ねると「家事支援に迷惑がかからないように」とのこと。非常に嬉しいなと感じた。やっとやる気になってくれたと感じた。「遠くの病院を辞めて歩いて近くの病院へ行こう」「家から出ていこう」というように考えてくれたことは移動支援をやっていてよかったなと感じた。やってあげたではなくやらせてもらってよかったなと感じている。

A：皆さんの手元になかちゃん通信を配布した。B に一部読んでいただきたい。

B：※内容については別紙参照

A：移動支援は目的地に届けているだけではない。ということが書かれている。

B：移動支援については、直近で家事支援だよりにて運転手の募集をしたところ、30 代～60 代の方が 4 人ほど運転手やっても良いと申し出てくれた。ありがたいことだと思っている。

	⑥A：現時点で家事支援にて移動支援が立ち上がっていない地区社協がある。中には立ち上げに向けて検討中の地区社協がある。そのような地区社協へのアドバイスや伝えたいことがあったらぜひお願いします。 B：移動支援は車を使用するため,初めは「危険じゃないかな」「事故をやってしまったら困るな」という不安が付きまとうと思う。そう思うとなかなか一歩が踏み出せないと思うが、「どうしたらできるんだろう」「どのような方法であればできるんだろう」と考えることが大切。車両保険を付けたのもその一つ。何とかできる方法を考えてやろう。不安ばかり、できないことばかりを探すのではなくて何とかできる方法を探そうという気持ちで 1 歩皆さんも踏み出していただけたらいいんじゃないかと思う。困っている人がそばにいることは皆さんも承知だと思うので、そのような人の助けになる移動支援ができたらきっと地域の皆さんも助かると思う。ぜひ皆さんも一緒にやっていただければと思う。 C：今までやってみて心配することはない。まずはやってみること。その一言に尽きる。皆さんぜひやってみてください。 A：以上でパネルディスカッションは終了です。これから浜名地区、麁玉地区の中で移動支援について検討していただくための、一つの理解を深めるための会として捉えてもらいたい。 【委員より感想・質問】 ・自動車の保険料といった金銭の問題が一番だと思うが、現在移動支援を実施している中で事前に検討しておけば今の移動支援がもっとやりやすかったのではないかと思うことはあるか？ ➡・やはり自動車保険料。お金さえ何とかなれば大丈夫。始めたころの保険料は 1,750 円。それが今年から 1,450 円に下がってきた。他の地区でも実施することでさらに値段は下がると思われる。一番初めに法律が改正されて白タクでなくても移動支援ができると話を聞いたときから「やってみよう。」「何も差し障ることはないじゃないか」ということで開始した。まずは実施してみるのが良いのではないかと思う。保険料の問題としては自分の入っている任意保険を使用すると 3 年間は 10 万円ほど保険料が上がってしまう。個人の負担がないように家事支援にて保険に入っている。事故をやってしまうと各個人の保険料が上がってしまうから家事支援の方で面倒をみようとなった。そのため、積志地区では車両保険に入らずに保険料 400 円。北浜なか地区では車両保険は上限 200 万円のものに加入している。 （6）その他 ・次回：令和 5 年 6 月または 7 月の金曜日に開催予定
今 後 の	移動支援については、協議体委員がそれぞれの立場で必要性を感じているが、地区社協が立ち上げるにあたり、自動車保険料の負担が課題であった。

見通し等	この課題に関しては、第2回の協議体会議にて、浜松市の補助金制度である「住民主体サービス補助金」について検討し、自動車保険料として補助金が受けられる目途がついている。 それを踏まえ、今後は、家事支援事業として移動支援を実施するかどうかを検討していく段階となる。 今回の第3回協議体会議では、実際に移動支援を実施している「北浜なか地区社協」の方にゲストとして来ていただき、「立ち上げを決めた理由」や「立ち上げにおけるいくつもの課題を乗り越えた原動力」などを語っていただいた。 委員の中から「北浜なか地区社協の方々の熱い思いが胸に刺さった。」「立ち上げは難しいと思っていたが、意外と簡単にできるかもしれない」といった声も聴かれた。 来年度の協議体会議では、より効果的な会議となるよう、しっかりと取り組んでいきたい。